

「ネットワーク」 に関する現場技 ①

CA Technologies

実運用を見据えた現場技10連発

「ネットワーク」 に関する現場技

- 1、レプリケーション中に回線障害が起きたら？
- 2、スプールディレクトリに関する注意点
- 3、帯域制御機能の活用
- 4、レプリケーションに必要な帯域幅を見積もる

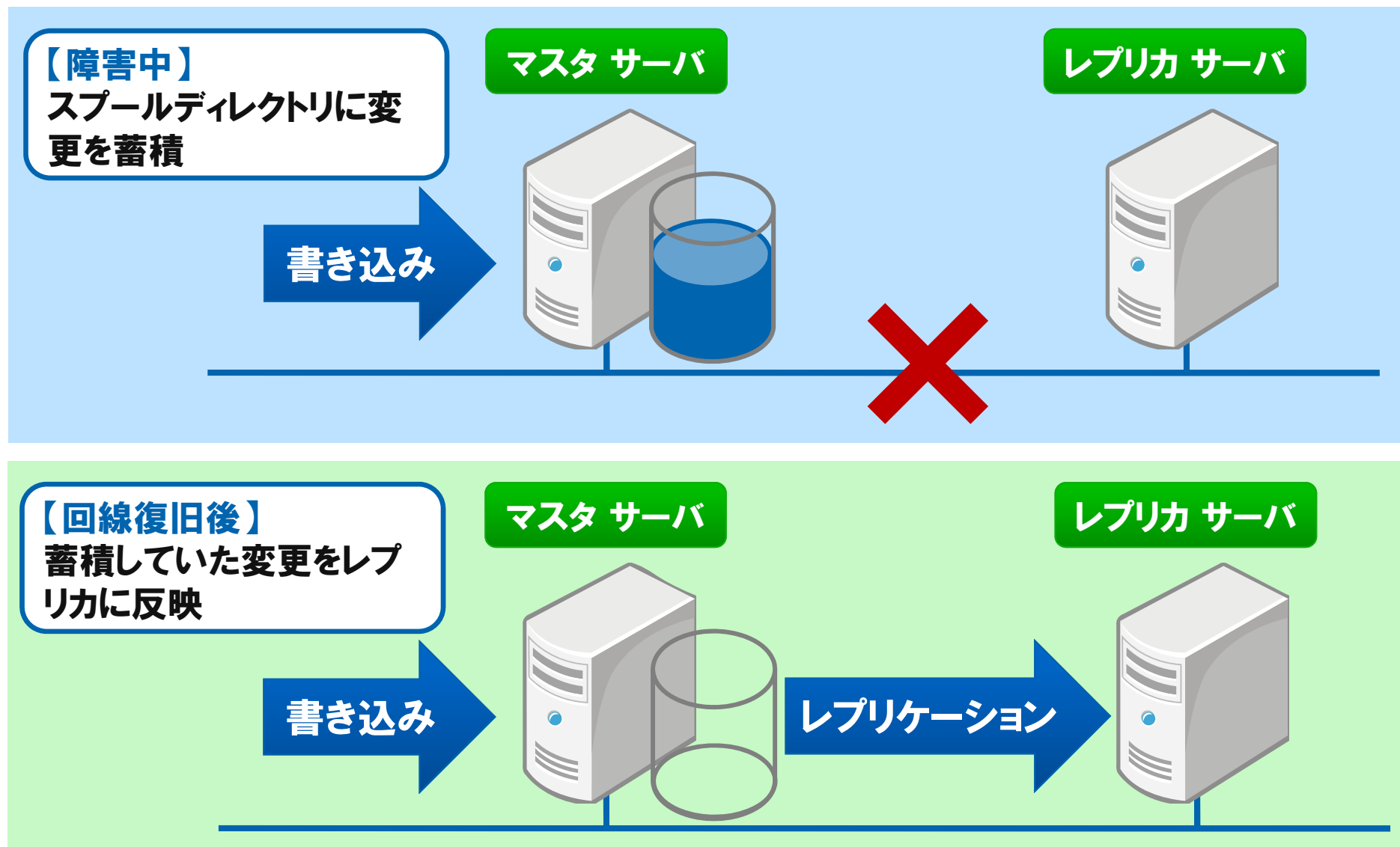
「同期」 に関する現場技

- 5、同期はいつ行われる？
- 6、同期にかかる時間
- 7、ホストメンテナンス機能で再同期せずに再起動

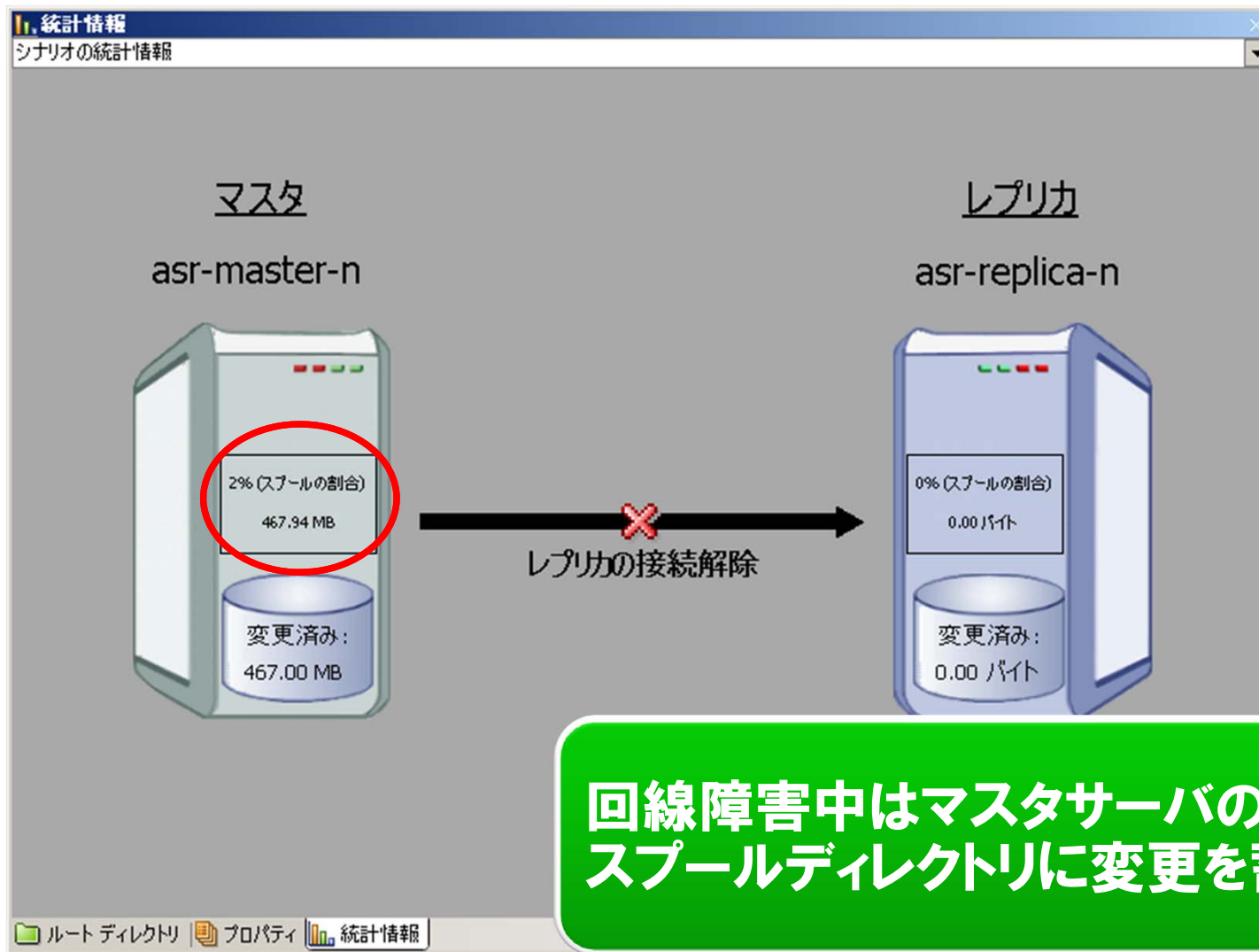
「切り替え運用」 に関する現場技

- 8、レプリカサーバを使って「とりあえず」運用
- 9、リストア機能でマスタに運用を切り戻し
- 10、クロスレプリケーションでサーバの設置台数を節約

① レプリケーション中に回線障害が起きたら・・・？



回線障害が起きたら…？



2 スプールディレクトリに関する注意点

Point 1

ディスクの空き容量に注意！

スプールディレクトリが存在するボリューム(デフォルトはCドライブ)の空き容量が「最小空きディスク容量」を下回るとシナリオの停止や自動再同期が起こります。

Point 2

サイズの目安はデータの10～15%

データの更新頻度によって必要なサイズは異なりますが、大まかな目安として総データ量の10～15%のディスク容量を確保してください。

Point 3

ジャーナルファイルが頻繁に出入り

パフォーマンスの悪化を避けるためアンチウィルスソフトのスキャン対象や、バックアップ対象からスプールディレクトリを除外してください。

(ボリュームの分割例)



システム領域 (C:)
150GB

データ領域 (D:)
400GB

スプール領域 (E:) 50GB

3 帯域制御機能を活用

